

病床機能再編計画

資料 2 - 2

令和 6 年 11 月 20 日
医療審議会

医療機関名 県立中央病院

病床数(床)

平成 30 年度病床機能報告 現在 (H30.7.1)

一般病床(A)	679	高度急性期(a)	564
療養病床(B)		急性期(b)	115
		回復期(c)	
		慢性期(d)	
		休棟中	
		うち再開予定有(e)	
		〃 無(f)	
計(A+B)	679	計(a+b+c+d+e+f)	679

将来 (R7.4.1) ※R8.3.31まで

一般病床(G)	579	高度急性期(g)	519
療養病床(H)		急性期(h)	60
		回復期(i)	
		慢性期(j)	
		休棟予定(k)	
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	579	計(g+h+i+j+k)	579

(上記内容(減床)の考え方について)

直近の状況として、病床稼働率が 80% を下回るなど、患者数に対する病床数が過多となっていると考えられる。

よって、看護師の適正配置による効率的な医療提供体制を構築するため、患者数に合わせた病床数とし、医療資源の効率化を図りたい。

平均在院日数 一般：12.5日

病床利用率 一般：77.6% 療養：%

病床稼働率 一般：83.8% 療養：%

診療科 合計 31 科 (標榜診療科数)

主な紹介元医療機関

青森市民病院、むつ総合病院、あおもり協立病院、青森新都市病院、青森厚生病院、公立野辺地病院、平内中央病院、十和田市立中央病院

主な紹介先医療機関

青森市民病院、むつ総合病院、あおもり協立病院、青森新都市病院、青森厚生病院、公立野辺地病院、平内中央病院、十和田市立中央病院

当院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】

へき地医療拠点病院、災害医療拠点病院、都道府県がん診療拠点病院、難病診療連携拠点病院、エイズ治療拠点病院、地域医療支援病院、紹介重点医療機関

【主な患者像、地域の役割等】

当院は、県立唯一の総合病院及び三次救急病院として、県全域の患者を対象とした高度急性期医療の提供をしている。一方で、青森・東青圏域では二次救急の輪番病院としても機能するなど、県及び圏域の拠点病院としての多く役割を担っている。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

当院は、県の高度急性期医療を担う医療機関として、病床機能の変更はしない。また、2030年を目途に青森市民病院との統合新病院を開設を見込んでいる。

2030年3月頃を目途に青森市民病院との統合新病院の開院を予定しており、新病院は、「青森地域保険医療圏における中核病院」、「県全域を対象とした高度、専門、政策医療の拠点病院」としての役割を継承し、一般病床数については750床とすることとしている。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

療養支援センターを設置し、地域連携パスの運用、患者の転院・施設入居等の連絡・調整等を行うことで適切なタイミングでの退院や地域への橋渡しのマネジメントを行っている。

<訪問診療>

県内全域の通院困難な医療的ケア児及び東青地域の人工呼吸管理の必要な難病患者に対して実施している。

<後方支援>

患者の急変時の受入れや他施設での災害時の医療計画の策定支援等の後方支援を実施している。

<看取り>

現状実施していない。また、今後も実施の予定はない。

病床機能再編計画

医療機関名 エルム女性クリニック

病床数(床) 18

平成30年度病床機能報告 現在 (H30.7.1)

一般病床(A)	18	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	18
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	
		〃 無(f)	
計(A+B)	18	計(a+b+c+d+e+f)	18

将来 (R6 . 10.1) ※R8.3.31まで

一般病床(G)	12	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	0	急性期(h)	12
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	12	計(g+h+i+j+k)	12

(上記内容(減床)の考え方について)

平成26年から現在までの間に県内の分娩数が減少し特に当院の所在する西北五地域での分娩数が激減しており、今後再度増加する見込みは現状でない。また外来通院患者さんの通院治療が増加しておりそのための入院病床面積を減らして外来部門への転換を予定している。

病床利用率 一般： 21.8% 療養： 0 %
病床稼働率 一般： 7.9% 療養： 0 %

主な紹介元医療機関 つがる総合病院

主な紹介先医療機関 つがる総合病院

当院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】

一般有床診療所

【主な患者像、地域の役割等】

一般産婦人科診療とローリスクの分娩を扱う診療所であり、主につがる総合病院、弘前総合医療センター、弘前大学医学部附属病院へ高リスク患者の紹介を行なっている。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

分娩数が平成26年にはおよそ年間250件であったが令和5年には160件と地域の出産数の減少と少子化にともなって分娩入院数が減少して空床が多くなっている。ただし分娩は計画的に分娩があるわけではなくその時によって10人程度の入院を要する場合もあるため必要病床としては余裕を持って12床としている。また現在産後ケアとして外来通院のための療養のために外来診療のために病床部分を利用し始めており、また将来的には更に分娩数が減少した場合、今後宿泊療養型のケアを行う予定である。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

<訪問診療>

<後方支援>

<看取り>

病床機能再編計画

医療機関名 公立七戸病院

病床数(床)

平成30年度病床機能報告 現在 (H30.7.1)

一般病床(A)	110	高度急性期(a)	
療養病床(B)		急性期(b)	74
		回復期(c)	36
		慢性期(d)	
		休棟中	
		うち再開予定有(e)	
		〃 無(f)	
計(A+B)	110	計(a+b+c+d+e+f)	110

将来 (R6.4.1) ※R8.3.31まで

一般病床(G)	70	高度急性期(g)	
療養病床(H)		急性期(h)	42
		回復期(i)	28
		慢性期(j)	
		休棟予定(k)	
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	70	計(g+h+i+j+k)	70

(上記内容(減床)の考え方について)

医師数の減少に伴う外来・入院患者減少及び、将来の地域の人口減少を鑑みての減少です。また、当院は3つの病棟から編成されており、2病棟の40床（急性期病床）を廃止し、1病棟の36床（回復期病床）に新たに8床急性期病床を設ける配置となります。1病棟の主たる患者は内科です。3病棟の34床は整形外科、眼科の患者が主たる入院患者です。

平均在院日数 一般： 11.7日

病床利用率 一般：64.3% 療養： %
 病床稼働率 一般：67.6% 療養： %

診療科 内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻科・皮膚科・小児科・リハビリテーション科
 合計8科

主な紹介元医療機関 十和田市立中央病院

主な紹介先医療機関 十和田市立中央病院

当院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】

・保健医療機関・国民健康保険料用取扱機関・労働災害補償保険法指定医療機関・生活保護法指定医療機関・身体障害者自立支援指定医療機関（育成医療・更生医療）・身体障害者福祉法指定医に配置されている医療機関・救急告示病院・病院群輪番制参加病院・二次救急病院・日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設

【主な患者像、地域の役割等】

整形外科・小児科以外の診療科は高齢の方が多く、地域の現状は今後さらに高齢化が進むと思われます。構成町（七戸町・東北町）における唯一の公立病院として、救急受入体制、新興感染症発生時の即応体制の継続、人間ドック・生活習慣病予防健診を実施し、地域住民の健康、生命を守ることが当院の役割と考えます。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

手術適用患者数が安定している整形外科の急性期病床を残しながら、今後さらに地域住民の高齢化が進むと考えられますので、回復期機能を充実させ、地域の基幹病院である十和田中央病院との連携をさらに強化し、回復期の入院患者を増やしていきたいと考えています。病床数は、今後の需要を考慮しながら、また医師の人数にあわせて減床も視野に入れて行きます。院舎は老朽化が進んでいますが、平成21年に耐震補強を完了しており、建て替えの予定はありません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

各病棟担当の看護師・社会福祉士が、今後予想されるサービスや退院先等を、ケアマネ・患者家族と相談している。今後病床数削減に伴い、入院期間の短縮が予想されるため、より早期からの退院支援介入を行っていきます。

<訪問診療>

訪問診療担当の医師は1名で、外来診療の傍ら週1回5～6名を訪問している。遠方では20Km離れており往復で1時間要する訪問先のある。今後は、遠隔医療システムの導入を予定している。リモートでの訪問診療を併用し、へき地の訪問診療の効率化を図っていきます。

<後方支援>

退院時は、退院前カンファレンスを開催し、安心して在宅療養ができるように積極的に行っている。訪問診療や訪問看護ステーション利用者の家族に対しても、レスパイト入院を取り入れるなど在宅介護が継続できるよう支援していきます。

<看取り>

看取りの件数は少ないが、施設や自宅での看取りを支援している。今後は当院の訪問看護ステーションが24時間体制となり、安心して看取りができるようサポートしていきます。

病床機能再編計画

医療機関名 医療法人赤心会 十和田東病院

病床数(床)

平成30年度病床機能報告 現在 (H30.7.1)

一般病床(A)	60	高度急性期(a)	
療養病床(B)		急性期(b)	60
		回復期(c)	
		慢性期(d)	
		休棟中	
		うち再開予定有(e)	
		〃 無(f)	
計(A+B)	60	計(a+b+c+d+e+f)	60

将来 (R7.2.1) ※R8.3.31まで

一般病床(G)	50	高度急性期(g)	
療養病床(H)		急性期(h)	50
		回復期(i)	
		慢性期(j)	
		休棟予定(k)	
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	50	計(g+h+i+j+k)	50

(上記内容(減床)の考え方について)

出生率の低下等で小児の患者の減少が見込まれる中、小児の入院を停止、入院が必要と判断した患児は十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院との連携を強化し上十三地域の小児医療を行って行きたいと考えております。

平均在院日数 一般： 20日

病床利用率 一般：76.7% 療養： %
 病床稼働率 一般：80.6% 療養： %

診療科 合計 6 科

(整形外科・小児科・内科・循環器科・リハビリテーション科・リウマチ科)

主な紹介元医療機関 十和田東クリニック

主な紹介先医療機関 十和田東クリニック・十和田市立中央病院・八戸赤十字病院・三沢市立三沢病院

当院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】 なし

【主な患者像、地域の役割等】

高齢化社会が益々進む中、整形外科領域の患者の増加が予想されます。地域社会において骨折後寝たきりの状態になり、その後の家族への負担が大きな社会問題となっております。コロナウイルスの発生により社会活動が制限され、一時期入院患者も減少していましたが、通常为社会活動に戻るにより入院患者の増加が予測されます。少しでも寝たきり状態になる高齢者をこの地域から減らして行くと共に、整形外科領域の医療に貢献していきたいと考えます。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

上十三地域において、小児科領域、循環器科領域は主に外来を中心に地域連携を図り、整形外科領域においては紹介患者の迅速な手術等を担って地域医療の向上に貢献したいと考えております。 今後も急性期、50床での体制でと考えております。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援> 現在、在宅医療には医師、スタッフの人数が足りず取り組みをしておりません。今後においても在宅医療に携わることは、大変難しいと考えております。以下も同様です。

<訪問診療>

<後方支援>

<看取り>